

令和3年度第3回蒲郡市総合教育会議 会議録（要旨）

開催日時	令和4年3月29日（火）午後1時30分から午後2時15分まで
開催場所	蒲郡市役所5階 庁議室
出席者	<p>蒲郡市長 鈴木 寿明</p> <p>蒲郡市教育委員会</p> <p>教育長 壁谷 幹朗</p> <p>教育長職務代理者 渡辺 充江</p> <p>委員 石渡 篤史</p> <p>委員 水藤 頼利</p> <p>委員 稲葉 千穂子</p> <p>【オブザーバー】</p> <p>企画部 部長 大森 康弘</p> <p>総務部 部長 平野 敦義</p> <p>教育委員会教育部長 嶋田 丈裕</p> <p>【説明者】</p> <p>教育委員会学校教育課長 小澤 良充</p> <p>教育委員会学校教育課副主幹 小島 賢三</p> <p>【事務局】</p> <p>企画部企画政策課長 成瀬 貴章</p> <p>企画部企画政策課長補佐 伊藤 次郎</p> <p>企画部企画政策課主事 大桑 智子</p>
議事	1 蒲郡市立小中学校における小中一貫教育の推進について（意見交換）
会議資料	1 蒲郡市立小中学校における小中一貫教育の推進について
会議内容	<p>1 蒲郡市立小中学校における小中一貫教育の推進について</p> <p>【説明者：学校教育課】</p> <p>蒲郡市における小中一貫教育の必要性と考え方を説明</p> <p>【質疑・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育を進めるにあたり、地域との関わり方はどう考えているのか。 ⇒地域と学校の連携として、コミュニティスクールを推進し、令和6年度には全校に設置する。そこでは、中学校単位で、小中一貫教育の教育内容・目指す子ども像・教育課程などを一緒に検討していく予定。（教育委員会） ・児童生徒数の減少に伴う学校規模適正化の観点から必要性を感じる。ただ、義務教育学校や併設型小学校・中学校、特に施設分離型は、現状とどのように違うのか。 ⇒文科省の示す小中一貫教育の定義では、「小中学校段階の教員が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す」となっている。 <p>現状では、各小学校・中学校で目指す子ども像を作り、校長が学校</p>

	<p>運営をしている。それが、小中一貫教育では、目指す子ども像は義務教育9年間で共通したものを考え、9年間を見通した教育を行うこととなる。(教育委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 人事異動の問題が懸念されるが、目指す子ども像等は維持していけるのか。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒目指す子ども像は地域とともに掲げ、練り上げていくため、子どもたちや地域の様子を理解した上で引き継ぎをする。その中で、各々の校長の良さを出せる部分には反映し、積み上げていくことになる。(教育委員会) • 蒲郡市で検討される小中一貫教育の形態は3種類あるが、異なる形で行うことにより想定される課題は何か。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒義務教育学校は、1年生から9年生が同じ校舎になるため、異学年交流が非常にしやすくなる。交流に関していえば、施設分離型の場合は義務教育学校よりも頻度は少なくなると考えられる。しかしながら、現在はICT教育も進んでいることから、オンラインを通じて学校間を結び、小中学校の連携、異学年交流を進めていきたいと考えている。(教育委員会) • 9年間を見通した新時代の義務教育を進めていくことは大事であるが、課題もいくつかあるので、しっかりクリアに向けて取り組んでいただきたい。しかしながら、課題以上に効果の方が大きいと感じているので、地区によって実施する形態は異なると思うが、ぜひ小中一貫教育を進めていただきたい。
--	---